

明神岳東陵

2009年5月3日~4日 メンバー:L河崎、平本(記録)

5月3日前夜に町田駅で集合し、日付が変わってから沢渡第二駐車場にて車中泊。普通の時間に目覚めてバスで上高地へ。指導員に声をかけられ、雪崩にも注意を払うよう言われる。何でも、4月29日には穂高周辺でも60cmの新雪が降り、あちこちで表層雪崩を見かけたとのこと。しかし、見上げる山々に雪は少ない。

明神池から明神橋を渡り上流へ数

十mでY路を左に入り、養魚場跡裏 手から沢を渡って山中へ赤テープ に導かれる。遭難慰霊碑がある所で はじめに入る大きな沢(下宮川谷) に進路をとる。これが間違いの始ま り。正しくは沢を横切り尾根一つ向 う側(上宮川谷)だった。ゴーロと 雪渓の沢を詰める。上部は急な雪渓 と悪いガレ場の横断でとても気を 遣う。上部左岸にコルが見え、コル に立つと沢一つ向こう側にひょう たん池らしい広場が眺められた。ミ スコースをあまり悔やむ様子もな く淡々と懸垂で隣の沢へ下降し雪 渓を横断してひょうたん池へ向か う正しいルート上に出る。雪渓は急 だったが、最近降った新雪で表面は 柔らかく、ステップが効くので助か った。ひょうたん池手前の斜面は広 くデブリが出ており、降雪直後の危 険性を感じさせる。

ひょうたん池は広く、大テント数張りにも余裕の広さで大パーティはここで幕営が快適である。

さて、ここからいよいよ雪稜の始まりだ。ロケーションは最高である。明神の岩稜から前穂北尾根までが翼を広げてのパノラマの中を登って行く爽快なコースである。ナイフリッジというほどの細さはないが、適度にやせた、片斜面を登る。雪の付かない岩とブッシュの乗越してはザイル確保をお願いした。ピークを過ぎてまたピークと先の見えな

い雪稜と岩ブッシュが交互に出て くる。雪の上は快適だが、岩ブッシュでは足がつって悲鳴を上げた。もんだり、叩いたり、休めたりしながら何とか歩き続ける。

夕刻になりやっとバットレスが見 え、細い稜の上にテントが一張り。 落ち着いた様子の3人パーティと 少っとで見いるではではでいるでといるでといるではずだがい。 かもそこではずだがい。 りかもそこではずだない。 りがい、あまり眠れないで 目覚め準備も万端、バットレスの 場へのおりでいる。 核心の岩場は高さ8m位。左手ク りかり、右手細かいフェースで4級 で、河崎氏はジャミングを効かせて きちんと登り、私はフィックスをゴボウ抜きしてしまった。

この岩場は噂に聞くよりも難しい と感じた。

岩場を過ぎて雪稜が傾斜を増したので、やはリザイル確保をお願いし、一時間足らずで山頂の少し2峰側に出た。

この段階で縦走をせずに、明神沢を 岳沢に下るつもりでいた。ガイド本 にある中明神沢や前明神沢は下降 に適さないと思えたので、奥明神沢 へ向かう。ガレや岩場で少し注意が いる。(コルの手前懸垂)

奥明神沢のコルからは大勢下降し ている様子で踏み後が沢山ある。

数日前に降ったという雪がまだ新しく、薄ら青く光る。

落石等を少し気にしながら、のんび りと岳沢ヒュッテを目指して下っ て行った。

今回のルートは1泊2日で手軽な割には適度な緊張感と素晴らしいロケーションで楽しめました。

登攀具もランニング3~4カ所を とれる位で大丈夫です。好天であれ ば最低気温も-3 くらい。軽量化 できます。

反省点としてはアイゼントレと雪 訓をしっかりやって行けば良かっ たと思います。

終始落ち着いてリードしてくれた

河崎さん、ありがとうございました。

コースタイム

5月3日(晴のち曇)

上高地7:30~明神8:30~間 違いのコル11:00~ひょうたん

池13:00~バットレス下部テン

場(2860m)16:15

5月4日(曇)

テン場7:00~明神本峰8:15 ~岳沢10:30~上高地11:5

0

地形図:穂高岳